

平成27年度事業報告書

平成27年度において実施した本会事業の概要は次のとおりである。

1 広報事業

(1) 社会貢献広報事業の実施

宝くじの社会貢献広報事業として、公益法人等が行う社会福祉、社会教育、青少年育成、安心安全、その他公益の増進に寄与する事業に対し、平成27年度は101団体に、総額2,755,193,962円（消費税込み）の助成を実施した。

(2) 宝くじドリーム館の管理運営

宝くじの恒常的な普及宣伝、情報発信基地としての東京及び大阪の宝くじドリーム館において、日本の宝くじの歴史、宝くじの収益が全国の街づくりに役立っていることを紹介するコーナー、宝くじの発売スケジュールや過去1年間の当せん番号が検索できるコーナーなどを常時設置するとともに、特別パネル展、宝くじデザインコンテスト、ランチタイムコンサート等の催し物を実施し、宝くじをより深く理解していただくとともに、宝くじが地方自治体の貴重な財源として、全国の街づくりや住民生活の向上に寄与していること等宝くじの公益性、役割等について積極的な広報を行った。なお、平成27年度におけるドリーム館の入館者は東京87,096人、大阪67,873人であった。

また、宝くじの抽せん会の場所の提供を行い、東京では、「東京都宝くじ」を19回、「地域医療等振興自治宝くじ」を3回、「全国自治宝くじ」を2回のほか、数字選択式宝くじは「ナンバーズ」を480回、「ミニロト」を48回、「ロト6」を96回、「ロト7」を47回行い、年間695回の抽せんが行われ、大阪では数字選択式宝くじの「ナンバーズ」を40回、「ミニロト」を4回、「ロト6」を8回、「ロト7」を4回行い、年間56回の抽せんが行われた。

2 調査研究事業

(1) 宝くじ統計調査の実施

従来のモニター調査に代わり、年1回、募集に応募した全国の18歳以上4,300人余の中から、人口分布状況等に基づいて抽出した1,500人を対象に調査を実施した。調査は、各種くじの購入実態、各種広告・宣伝、最高賞金及び証票単価等について行い、その結果は宝くじ関係機関等へ配付した。

(2) 宝くじに関する資料作成

27年度は、宝くじ関係者の実務の参考に資するために、宝くじのあゆみこの10年（平成17年度～26年度）を作成して、宝くじ関係機関等へ配付した。

3 世界富くじ協会（WLA）、アジア太平洋富くじ協会（APLA）との連絡協調

平成27年度においては、アジア・太平洋富くじ協会（APLA）の常任理事会が4月にオーストラリア（ゴールドコースト）で行われ、また、総会が10月に韓国（ソウル）で開催され、それぞれの会議に、国際協調を図るため出席した。隔年開催の世界富くじ協会（WLA）の総会は、平成27年度は開催されなかった。

平成27年度事業報告 附属明細書

平成27年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。